# 『経理研究』第60号発刊に寄せて

中央大学経理研究所
所長　上　野　清　貴

『経理研究』は，会計研究者と会計実務家が互いの立場から会計を論じ，諸問題の論議を交わす意見交流の場を提供する機関誌である。前々回まで毎年発行されてきたが，諸般の事情により前回から隔年に発行されることとなった。しかし，その研究分野は変わらず，従来と同様に「財務会計」,「管理会計」,「税務会計」,「監査」と多岐にわたり，本号で第60号を数えるに至った。

本誌がカバーする幅広い研究分野のなかで，今回は，特集テーマとして「税務が当面する内外の諸問題」を選んだ。企業のグローバル化に伴い，国際税務における困難な未解決の諸問題が量的にも質的にも多岐にわたり発生しており，また，国内においても税務問題が一段と複雑化を増してきている。このような税務会計が当面している内外の諸問題にかんがみ，それらの諸問題の存在を認識し，その解決に向けて論議し，検討を加えようというのが，今回の特集テーマの趣旨である。

この趣旨の理解のもとに，このたび，特集論文として，５篇の玉稿をいただくことができた。「社会会計における税金の取扱い」,「国際税務における最近の諸問題」,「組織再編における租税回避戦略」,「取引相場のない株式の評価」および「外国法準拠取引等への日本の租税法令の適用の在り方に関する考察」である。これらは税務会計における幅広い領域をカバーしており，税務会計の研究にあたって，大いに示唆に富むものである。

『経理研究』第60号には，この特集論文を除いて，「自由論題」として，13篇の珠玉の論稿をいただいている。その内訳は，財務会計で７篇，管理会計で５篇，そして監査で１篇である。

この「自由論題」では，従来と同様に財務会計が多く，その研究領域のなかでは国際会計が少なくなり，会計理論および会計実践をカバーするさまざまな論点が取り上げられている。それゆえ，その研究領域は従来よりも広がった感がある。また，管理会計領域でも，理論と実践にわたって重要な論点が論じられ，さらに今回は監査が加わって総合化され，学界および実務界に多大な貢献をなすであろうことが確信できる。

このように，本誌は，この種の雑誌として，質の点においても，また量の点においてもきわめて高水準にあるということができ，関係者として望外なる幸運を感じずにおられないでいる。ここに，ご執筆いただいた先生方には，衷心より御礼を申し上げる次第である。

2018年　盛夏